

【3】次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

(駒澤大学・経済学部、一九九八を改編したもの)

孔子、あるいはソクラテスがその周囲に弟子を集めて教えたのを学校とすることも許されない。優れた人間がその周りのものをカンカする⁽¹⁾というのは学校の観念から遠くて、またもしそれが学校をいうものなら、そこで本当に教師の役を務めているのは人生そのものである。学校の観念がそれから遠いというのは、学校というのはそこから出た後に人生が始まる仕組みになっているからにはかならない。ヨオロッパの大学は僧院から発達した。つまり、これも初めのうちは、学校ではなかったもので、当時はまだ特殊な技術だったチシキ⁽²⁾というものを実地に身に付けることを望むものが、集まって来てその稽古をしたのが、そういう中世紀のヨオロッパの大学だった^Bのであり、それこそ学校ではないかと抗議するものがあると思えないのは、誰でも今日の学校というものに一度は行ったことがあるはずだからである⁽³⁾。今日の学校で一体、どういうことを身に付けることができるのか。しかし僧院の匂い^{にお}がまだ残っている大学で神学、あるいは幾何学の勉強をしたものは、その知識を確実に身に付けるキカイ⁽³⁾を与えられた。(吉田健一「寺子屋」)

問一 傍線部(1)、(2)、(3)のカタカナを漢字に直せ。

問二 傍線部A「そこで本当に教師の役を務めているのは人生そのものである」について、だれの「人生」であると言っているのか。文中の語句を選んで示しなさい。

問三 傍線部B「それこそ学校ではないかと抗議するものがあると思えないのは、誰でも今日の学校というものに一度は行ったことがあるはずだからである。」とあるが、「一度は行ったことがある」人は、なぜ「抗議」しないと筆者は考えているのか。もっとも適当なものを、次の中から選べ。

A 今日の学校を相対的に見ることができず、中世紀ヨーロッパの大学も現在も変わらないものと思い込んでいるから

I 今日の学校に対する認識からは、中世紀ヨーロッパの大学が学校であるという判断はもちににくいから

ウ 今日の… (後略)